

時間割コード	G2B40508	開講年度	2026				
授業題目	日本の教育と社会の歴史					担当教員	塩原 佳典
英文授業名	Society and Education in Japanese History						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	全
講義室	共通教育 1 3 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP						
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				日本史（特に近世から近現代にかけて）における教育の歩みを概説的に理解する。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	近世から近現代にかけての日本社会の歴史を、特に教育に視座をすえて講義を行う。日本史における教育と社会の関係史について概観することを通して、受講生がそれぞれの歴史の見方を省察する機会としたい。						
(5)授業のキーワード	日本近現代史、日本教育史、教育社会史						
(6)授業計画	第1回：ガイダンス（講義の進め方、成績評価の方法など） 第2回：江戸の「勉強ブーム」（身分制社会と教育、庶民の学び） 第3回：武士教育と藩校（素読と会読、教育と政治、維新変革と教育） 第4回：教育の政治的中立を再考する（近代移行期の教育者、自由民権運動と教育） 第5回：近代公教育制度の導入と民衆（「なぜ学校に行くのか」の社会史、就学告諭の世界） 第6回：「立身出世」社会の到来（身分制社会から市民社会へ、学歴競争社会） 第7回：教育勅語を読む（愛国心と教育） 第8回：教育勅語を読む（「くわしすぎる教育勅語」） 第9回：教育における「画一」と「自由」（沢柳政太郎にみる「制度の生き方」） 第10回：大正新教育の諸実践（民間教育運動、生活と教育） 第11回：生活綴方運動の展開（プロレタリア教育運動、生活綴方） 第12回：「戦ふ少国民」にみる戦時下の学校（総力戦体制と教育、「銃後」の社会） 第13回：戦後教育改革の射程（民主主義と教育、修身科と社会科） 第14回：戦後教育改革と教師（生活綴方の転生、経験主義から系統主義へ） 第15回：高度経済成長と地域社会の生活（変容する地域と生活） 授業アンケート（最後の15分で実施）						
(7)成績評価の方法	2回の小レポート（30％）と期末レポート（70％）による						
(8)成績評価の基準	講義の内容をおおよそ理解している（合格水準にある）、講義の内容を理解している（やや上にある）、講義の内容を理解し疑問を持てている（かなり上にある）、講義の内容を理解し疑問を的確に表現できる（卓越している）						
(9)事前事後学習の内容	講義中などで紹介する参考文献の予習と復習に取り組むこと。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	高校までに使用した日本史の教科書がある場合は、参照しながら受講してください。						
(11)質問、相談への対応	講義後の時間帯や、オフィスアワーを利用して対応します。						
(12)授業への出席	全ての回に出席することを基本とします。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に掲載されている方法により補充を受けるための申請をおこなってください。						
【教科書】	特に指定しない。レジュメを毎回配布する。						
【参考書】	辻本雅史、沖田行司編『新体系日本史16教育社会史』山川出版社、2002年						